

福井県民の将来ビジョン 分野別意見交換会 意見概要

(子育て・女性)

- 困っている時に誰かが助けてくれる環境が必要。(一時保育の充実、病児保育は限定的である。)身近な家族像や夫婦像を示すことで、早期の結婚を促すことができるのではないか。
- 心を育てることが子育てだと考える。コミュニケーション能力を育てるために、国語力を養う必要がある。
- 子育ては産業ではない。あくまで福祉として位置づけるべきである。
- 初めての0～2歳児を当日に突然保育園に預かることは難しい。病児保育についても、母親の定時勤務には間に合わないし、また、お母さんの次の大人は祖母ということになる。新型インフルエンザの時のように、子どもが順番に感染した場合には職場の理解が必要である。また、母親の顔見知りにも預けられるように日常のネットワーク作りが必要である。
- 女性にアンケートしたところ、子育てで一番困ったことは、子どもが病気になった時であるとの結果が出た。しかし、サービスを知らない、企業の理解が足りないなどの理由で利用されていないようだ。子育ては感謝する気持ちが必要である。
- 育児休暇を取得する割合が低下しているようだ。
- サービス、施設ありきの社会の姿が理想ではないと思う。子育ての第一義的責任は親にある。子育てのために親が犠牲になっているという考えでサービスが提供され、利用されてはいないか。子育ては地域のつながり、職場づくりが必要
- 最近の子どもたちは心が寂しくなっていると感じている。また、保育園、児童館に預けていれば大丈夫と思う若い親が多くなっている。
- 当初の目的から拡大し、センターが学童的になってきた。児童館だけの世界では子どもたちだけの小さな世界になってしまう。地域の子どもたちが年上、年下の関係を構築するなど、自分で自分の面倒見ることを学ぶ必要がある。
- 仕事をしていないと保育園に預けられない。子育てがひと段落して、就職しようとしてもパートばかりである。また、親は子どもを地域のスポーツ少年団等に預けるだけのようになっている。
- 子どもたちが地域の行事に出たいのに親が出させないこともあるようだ。
- 母親の子どもを育てる責任が希薄化している。親の教育をお願いしたい。
- 不妊症、不育症に悩んでいる女性もいる。子どもがほしい、子どもを育てたいという人もいることも知ってほしい。行政からも呼びかけてもらえれば環境が整うのではないか。
- 地域が家族であるという意識が必要。